

温故知新

日野歴史探訪

私達の住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化でいろどられています。
温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字別所

大字別所は、南北都佐地区の西部に位置します。低い水口丘陵とその間に入り組む谷が大部分を占め、地域の北辺を西に向かって流れる日野川と、支流の砂川が北東部分で合流する辺りの左岸沖積低地に集落があります。

地名の由来

地名の由来は、字域の東方に位置する寺尻村にあった月岡山朝日寺の別院（別所）である成願寺が建てられていたためと言われています。その成願寺が廃寺になった後に復興されたのが、真宗大谷派盛願寺であると伝わります（『ふるさと』の語り草）。

また、河川敷の開墾地のことを別所ともいい、日野川沿いの開墾地で

あったことに由来するともいわれています（『滋賀県の地名』）。

国天然記念物の高師小僧

別所を代表する文化財は、何といても「別所高師小僧」でしょう。高師小僧とは、谷状になった地形に沈殿した水酸化鉄が、湿生植物の根や地下茎の周りに同心円筒状に付着して、管状などの褐鉄鉱の固まりとなったもので、字真窪の古琵琶湖層群という地層に多く含まれています。

名称は、愛知県豊橋市高師原（たかしはら）から多く産出したこと、雨で周辺の土砂が流されて地面から突き出た状態が、雨上がりの後に子どもが立っている姿に似ているとして明治28（1895）年に名付けられました。別所は、大きなサイズの産地として注目され、昭和19（1944）年11

月13日に五〇九平方メートルが国の天然記念物「別所高師小僧」として指定されました。

松尾芭蕉の句碑

別所で注目されるもうひとつの文化財が、松尾芭蕉の句碑です。

かつて水口から日野に向かう道中、鞍骨峠の松の木の下に、俳人松尾芭蕉（一六四四―一六九四）の句碑が建てていました。その句碑について次の様な伝承が残っています。

芭蕉が、大津市石山の幻住庵に住んでいた頃、秋の夕暮れに水口から日野へと急いでいました。鞍骨峠に差し掛かった時、追いはぎに襲われ身ぐるみをはがれ途方に暮れた芭蕉の耳に遠くできぬたの音が聞こえてきました。思わず芭蕉の口から「はかれたる 身にはきぬたの ひ、き哉」という一句がつぶやかれたとい

います（『芋くらべの里 中山史』）。芭蕉が、鞍骨峠で実際に追いはぎに出会ったかどうかは定かではありませんが、この句は、美濃国で詠まれたとの説もあります。
その伝承を伝えるために、天明8（1788）年の冬、中山徳谷の岡崎淇水が建てたもので（『近江日野の歴史』第6巻 民俗編）、この句碑は現在、国道307号沿いに移転されています。



移転された芭蕉の句碑

この別所の句碑のほかに、日野町内には、天保14（1841）年に芭蕉一五〇回忌を記念して建てられた大字鎌掛正法寺のものと、文政12（1829）年に日野の俳人逸井が建立した大字大窪遠久寺のものがあ

近江の聖徳太子魅力発信事業

四天王寺の建立と桜谷

『聖徳太子伝暦』によると、太子は四天王の加護を受けて、崇仏を巡る物部守屋との戦いに十六歳で勝利しました。

その際に四天王のための寺院の建立を誓い、十七歳から四天王寺の建立を始めたとされており、桜谷には太子がここから四天王寺の木材を切り出したという伝承が伝えられています。

桜谷の聖徳太子縁起

太子は、四天王寺の用材を求めて斑鳩の宮から綿向山の麗の奥津保郷まで来られて素晴らしい森林を見つけ、綿向山の神の許しを得て切り出すことにしました。

しかし、木材を運び出す道が余りにも険しく、道中の安全を託すため、坂原神社を建立し、ここに道中安全を守る神を勧請してお祀りしました。これが杉の大屋神社で、杉杣大宮とも呼ばれていました。

この地の木材は、樵たちの手により切り出され、佐久良川や日野川を

流して琵琶湖を渡り、難波津まで運ばれ、無事四天王寺が建立されました。

この時、桜谷に来た樵たちが、四天王寺建立後もこの地に村をつつて住みついたことが杉・杣の集落のはじまりといわれています。



大屋神社



◆問い合わせ先

日野町商工観光課

☎0748-52-6562

東近江市観光物産課

☎050-5801-5662

町内企業紹介

広報ひのでは、地元企業や日野町商工会に所属する事業所を応援するため、取り組み等を紹介しています。掲載を希望する方は下記問い合わせ先までご連絡ください。

ひのやくひんこうぎょう 日野薬品工業株式会社

●所在地 日野町上野田119番地

●連絡先 ☎0748-52-1231

こんなものを作っています！

日野が生んだ伝統薬「まんびょうかんのうがん 萬病感應丸」

現在まで伝統薬として親しまれている「萬病感應丸」の歴史は、1714年(正徳4年)に初代正野玄三が創製した「しんのうかんのうがん 神農感應丸」を日野から行商に出る近江日野商人が全国に販売したことから始まったとされています。これを機に、日野では製薬を業とするものが増加し、「薬の町日野」とも呼ばれるようになりました。また、近江日野商人は、行商の先々で特約店展開を先駆けて、現代の薬局・薬店の元を作ったとされています。

“健康を願う心を製品に” 全国の薬局・薬店、ドラッグストアやスーパーを通じて、皆様のお役に立っています。

【会社概要】

- ・代表者名 まつい ひでまさ 松井 秀正
- ・従業員数 55名
- ・設立年 1943年(昭和18年)

【事業内容】

医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、医療・衛生用品及び食品の製造販売



◆問い合わせ先 商工観光課 商工観光担当 ☎0748-52-6562